

軍人遺族東京職業補導所附屬保育園參觀記

及 川 ふ み

大東亞戰爭下第二回目の靖國神社春季臨時大祭の行はれてゐる四月二十七日の今日、こゝ西大久保に新設せられた軍人遺族東京職業補導所附屬保育園を御訪ねするのは誠に感慨無量であつた。

豫め見學のことを御願ひすべくであつたのにその運びが出来ずに突然の參觀であつたが刺を通ずると心よく遊戯室に招じられて、朝禮のところから拜見出來た。

朝禮は體操、宮城遙拜、朝の挨拶で、幼児たちも保姆さん方も一同嚴肅に又元氣一ぱいであつた。朝の挨拶は皆さんのおはやうに、お父さんお早うもあつた。

今日の朝禮後の日程はお遊戯、自由畫の様であつた。

遊戯は全園児一緒に様々の唱歌や遊戯の様子など幼稚園と變りない様であつたが、遊戯室の片隅の、寢臺の上で保健婦さんと一緒にこれを眺めてゐる二三歳位の幼児たちの數人、の一團、三、四歳位の一人歩きの出來る人が一同の唱歌や遊戯などしてゐる間を縫つて歩いてゐる様なといかにも保育所らしい雰圍氣であつた。

遊戯の一きりがついて一同はお隣の保育室へ移つた。六、七歳の年長の幼児たちは自由畫、國旗をかいた、三、四歳の年少の人たちは同じ部屋で繪本を見たり、おもちゃで遊んでゐる。遊戯室

でも亦この保育室でも三、四歳位の幼児は見知らぬ外來者の自分に人なつこくより添つて來て何かと話しかけて來る、こはる、まきに繪本も讀んだ。

廣い遊園で三々五々思ふ存分遊び出した。日當りのよい、運動具のよく備へられた誠によい遊園である。

正午近く手を洗つて晝食の支度が始まつた。保育室に大きなお釜が運びこまれた。晝食はお菜だけをお辨當箱へ入れて各自持參してゐる。御飯は補導所で炊いたあたゝかいのをいたゞく様になつてゐる。お米は十日分、四合四勺(四歳まで)五合七勺(五歳以上)など年齢に應じてもつて來るとの事であつた。

お辨當箱に入れられたあたゝかい御飯を年長の幼児たちがくばる。新入所の母と子は寮へ歸つて食事するとかで數人の幼児はお母さんに連れられて歸つていつた。

晝食後は金太郎さんの繪畵があつた。繪畵はどここの幼児たちも大好きである年少の人たちも靜かによく聞いてゐた。

午後は隣接の戸山原の射撃場の草原へ散歩に出かけた。二歳の幼児は保健婦さんにおんぶされ、三四歳の人たちは手をひかれながら行つたが歸りはこれ等の人たちは皆おんぶか、だかれるかで歸る位、相當廣い場所まで出かけて摘み草して遊んだ。

二時半にはおやつ(カルケット十枚)

お入つのはは又遊園で遊ぶ。

午後三時になるとお隣りの補導所の授業が終つて大勢のお母さん方がそれ／＼お子さん方を連れて楽しさうに寮へ歸つてゆく。掃除當番のお母さん達は保育室、遊戯室、遊園、便所などそれ／＼の持場を掃除してからお子さんを連れて歸る。残りの数人の幼児たちは病院或は研究所に通學するお母さんの歸るまで當番の保姆さんと大體午後六時頃までこゝで遊んでゐるのである。

一日の保育をやつと終へられた先生に御迷惑ながら保育園の概覽を伺つた。

幼児數 五二名

二歳 一 三歳 一 四歳 六 五歳 一六 六歳 二一 七

歳 八 この中 男 三〇 女 二二

保姆 三人 保健婦 一人

保育室、遊戯室、保姆室、いづれも南向の日當りよき明き部屋、幼児の人數に對しては充分に餘裕のある廣き遊園、運動具の設備も充分である。この他に別棟補導所の中に乳兒室、牛乳室、匍匐室など美しく整備されてゐるが現在はまだ實際に使用されてゐない。

保育日程は大體左の通り

午前七時より登園始る

午前九時朝禮

正午 晝食

午後二時半 おやつ

午後三時より六時までの間に歸る

今週の豫定

月 談話 (自由發表) 自由畫

火 唱歌 遊戯 手技

水 遊戯 談話

木 團體遊戯 談話

金 遊戯 繪練習 ムリエ

土 觀察 繪ばなし 紙芝居

午前九時の朝禮の後午後三時の退園の時刻までの間に適宜繰り入れられる。

保姆の先生方は早い午前七時の出勤と、居残りの午後六時まで勤務をお一人づゝ交代で幼児たちの御相手をなさるようである。

保育園はどちらの保育園でもいづれも大同小異で、幼児の年齢の範圍が、普通の幼稚園より餘程廣いのである。こゝでも二歳より七歳までの幼児が前記のやうにその數も一定してゐない。同年齡の人數が年によつて多い少いが不同である事、長い時間の保育等々幼稚園に生活するものゝ遠く及ばないものがある。しかし先生方は元氣一ぱいで實に頼母しい限りである。その勞もどより大であるが又一方保育園の保育は實に幼児の生活の全般であり、長時間の保育であり、充實した保育である。幼児たちは保姆をして手持無沙汰にしておかない保育である。こんな意味から考へると保育園に働かれる保姆さん方こそ眞の保育の出来る人である。

この點幼稚園保姆の美しい限りである。

年齢の少い二三歳の幼児たちは一人一人に保姆がついてゐても尙手がまはりきれない様な感じのするのであるから保育園では保姆さん方は仕事のしまれない程盛澤山の中におかれてゐるわけである。

保育園の保育も幼稚園の保育も同じ年齢の幼児一人一人に對する保育については變りやうのあるわけはない事は勿論であるがその環境同年齡の數及び幼児數、保育時數などの異なるに従つて保育案にも自らその編成に特長があらはれて來るものである。

保育園の見學を終へて歸りながら、幼稚園と保育園について兩

小林登志女史を悼む

倉橋惣三

故兩國幼稚園長小林登志女史長逝、四月十七日、兩國幼稚園に於て盛んなる御葬儀が行はれた。園關係理事者諸君、母の會の方々と共に、園出身者及び園児達の燒香。誠に故女史の生前の溫容を偲ぶの思ひがした。高齡を以て最後まで幼児の間にその貴い職を楽しみつけられた幸福が、女史の健康の賜であつたことは素よりであるが、更に、一切を幼稚園に捧げつくして他意なかつた純乎たる生活上、あの、わだかまりなく、つくりかざりなく、求むるところない純乎たる性格の爲であつたことを見のがせない。安政四年十月十四日、東京市淺草區三筋町に生れ、明治十三年七月十日、東京女子師範學校幼稚園保姆練習科を卒業、幼

者をしみんく考へさせられる點が多々あつたが特に幼稚園の保育の物たりなきを痛感させられた。このものたりなきを何をもつて補はなければならぬかと云ふ事をさらにさらに考へさせられた。

保育園の見學の間に隣接せる補導所の諸施設も拜見出來た。各教室の完備した中に和裁其他の授業に精進されるお母さん方のお姿も實にたのもしく感ぜられた。

尙こ、より二丁程隔つた幼児たちの家、戸山寮にも伺つた。保育園ならびに補導所の實際を見學するにつけても、聖恩の鴻大なる事を感謝しつゝ自ら鞭つとどころがあつた。

幼稚園の數の少なかつた當時として、群馬縣師範學校教師、つゞいて東京市鞆繪小學校訓導をつこめられたが、明治十三年十一月十三日には大阪東區船場幼稚園保姆になられた。東京の公立本所江東幼稚園の主任保姆になられたのは明治四十一年一月三十日であり、それから後、大震災で同園が燒失したまゝ廢園となり、女史の熱意と努力によつて創設せられた、その後身といつてもよい私立兩國幼稚園長となり、八十七歳その職のまゝ長逝せられるまで、實に長くも傍目をふられない幼稚園人であつた。茲に女史に對する平素の敬意を禁じ難き哀悼の心を捧げる。